



画像提供：KUMON mi:te [ミーテ]

特集展示 4/26~6/15 やなせたかしが伝えたこと

漫画家・やなせたかしや、やなせの創作したアンパンマンを紹介した教科書を中心に、アンパンマンのキャラクターを上げる上で大きな影響があった、やなせの生涯についても取り上げます。



やなせたかし 略年譜

1919	(大正8)年	2月6日生まれ。高知県出身。終戦後、高知新聞社に入社
1947	(昭和22)年 (28歳)	高知新聞社を退社し、上京。三越百貨店宣伝部に入社
1953	(昭和28)年 (34歳)	三越百貨店を退社し、フリーとなる漫画、ラジオコントの脚本、テレビ番組の構成、映画雑誌での批評など、様々な分野での仕事を手がける
1961	(昭和36)年 (42歳)	「手のひらを太陽に」を作詞(作曲/いずみたく)
1973	(昭和48)年 (54歳)	責任編集の雑誌「詩とメルヘン」(サンリオ)創刊 月刊「キンダーおはなしえほん」(フレーベル館)で『あんぱんまん』を出版
1988	(昭和63)年 (69歳)	テレビアニメ『それいけ!アンパンマン』放送開始
1996	(平成8)年 (77歳)	香美市立(当時は香北町立)やなせたかし記念館・アンパンマンミュージアム開館
2009	(平成21)年 (90歳)	『それいけ!アンパンマン』が最もキャラクター数の多いアニメとしてギネス世界記録に認定
2013	(平成25)年 (94歳)	永 眠

子どもたちと同じに、ぼくもスーパーマンや仮面ものが大好きなのですが、いつも不思議に思うのは、大格闘しても着ているものが破れないし汚れない、だれのために戦っているのか、よく分からないということです。

本当の正義というものは、決して格好の良いものではないし、そして、そのために必ず自分も深く傷つくものです。そしてそういう捨身、献身の心なくしては正義は行えませんし、また、私たちが現在、本当に困っている事と言

えば物価高や、公害、餓えというところで、正義の超人はそのためにこそ、戦わなければならないのです。

あんぱんまんは、焼け焦げだらけのポロポロの、こげ茶色のマントを着て、ひっそりと、恥ずかしそうに登場します。自分を食べさせることによって、餓える人を救います。それでも顔は、気楽そうに笑っているのです。

さて、こんな、あんぱんまんを子どもたちは、好きになつてくれるでしょうか。それとも、やはり、テレビの人気者の方が良いですか。

【一九七三(昭和48)年 初出時のあとがきより】

やなせたかし

その後、テレビアニメも放送され、困っている人を助けるため、アンパンマンは、今もどこかの空を飛び続けています。発行所・フレーベル館



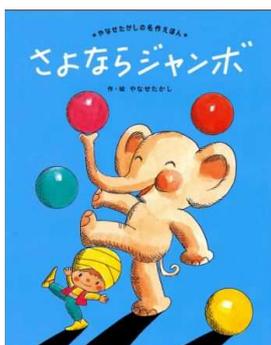
アンパンマンが初めて絵本で登場したのは一九七三(昭和48)年、月刊「キンダーおはなしえほん」10月号『あんぱんまん』でした。お腹をすかして泣いている人がいると、飛んできて自分の顔を食べさせる。ぼろぼろのマントを着た、誰も知らない正義のヒーロー。その捨身で献身的な姿は、たくさん子どもたちに受け入れられていきました。

▼『それいけ!アンパンマン』



▼『あんぱんまん』市販版

南の国からやって来た、子象のジャンボと象使いのバルー。みんなで楽しく暮らしていましたが、ある日戦争に巻き込まれて...



みなしごライオンの子ブルブルと、お母さんがわりの、犬のムクムクの物語。絵本作家活動の原点となった、読み継がれる代表作です。

▼『みなしごライオン』



▼『やさしいライオン』

やなせたかしの名作えほん

作・絵 やなせたかし

発行所 フレーベル館